

# 大学だより

## 東京都大 庄内柿で地元と 共同で商品開発

東京都大(東京都 頭に立ち、一般客からの世田谷区、中村英夫学 感想に耳を傾けた。長)と酒田観光物産協会 商品開発を進めてきた(山形県酒田市、斉藤成 のは、同大都市生活学部 徳会長)が共同で商品開 の女子学生七人と、都立 ユニークな試作品十四点発を進めている庄内柿を 晴海総合高等学校の女子 使った加工品の試食イベ 生徒十一人。都内の女子 ントが一月三十、三十一 高生をメインターゲット を反映させ、今秋にも商 の両日、都内の山形県ア にした加工品の試作に取 品化し、販売を目指す。ンテナショップで行われ り組んできた。

同学部一年の斉藤玲子 庄内柿は出荷が十月末 さんは「コンビニで気軽 と選いことか に手に取れる商品を目指 ら、全国的なした。難しかったが、自 認知度が低 分たちのアイデアが商品 い。また、「香 に反映されるのがうれし りが少ない」 いと笑顔を見せていた。

「水分が多 事業を提案した小松史 い「味があい 郎・同学部教授は「生産 まい」という 者と直接言葉を交わし 柿の特性から て、商品開発のプロセス 加工が難し を肌で感じることででき く、庄内柿を たのではないかと話し 使った加工品 ていた。



試作品を一般客に配る学生たち

はほとんどなかった。柿を食べる機会も少なく「おばあちゃんが食べるイメージだった」という学生たちは、地元の柿農園を見学し、栄養分まで研究。四十近い商品提案を行った。その中から、この日は、柿ジャムクッキーやチョコレート入り干し柿、柿入りかまぼこ、柿入りもなかなどユニークな試作品十四点を一般客に試食してもらった。イベントでの評価を反映させ、今秋にも商品化し、販売を目指す。

無断転載禁止

著作権は全私学新聞に帰属します

転載承認済

東京都大グループ  
学校法人 五島育英会